

3 果樹類の除草

(1) 一般的な注意事項

- ア 防風林、その他の作物に薬害を起こさないように注意する。
- イ 茎葉処理剤は、草丈が高い場合は多い方の水量で雑草の茎葉に十分かかるように散布する。
- ウ 強力な土壌処理効果のある除草剤の連用による無草化は避ける。
- エ 同一成分の薬剤を連年使用すると草種が偏るので連用しない。
- オ 茎葉処理剤は、果樹の茎葉等に付着すると薬害を生じるので、飛散しにくいノズルや飛散防止カバーを利用する。特にグリホサートを含む剤は吸収移行性が大きいので注意する。
- カ 除草剤の散布時にはゴム手袋、マスクなどを使用し、危害防止に十分注意する。
- キ 対象作物に登録のない除草剤は使用しない。展着剤も除草剤用として登録のない剤は使用しない。

(2) 主な果樹の除草剤の例（茎葉処理型除草剤）

グリホサートを含む剤（ラウンドアップ、草枯らし、サンフーロン、サンダーボルト007等）の使用上の注意

- 作物ごとのグリホサートを含む農薬の総使用回数の範囲内で使用する。
- 茎葉等からの吸収移行型除草剤である。
- 土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- 処理前は薬剤の付着面積を確保するため、雑草の地上部は刈り取らないようにする。
- 非選択的、各種雑草に作用する。
- 展着剤は加用しない。
- 遅効性なので、効果が完全に現れるまで、刈り払ったり、耕起したりしない。
- 傾斜面などで裸地化して、土壌が流亡したり、崩れる恐れのあるところでは使用しない。
- 果樹の葉や果実に付着すると、その部分には薬害症状が現れる。
- 果樹の根が浅い場合には、薬害を生じることがあるので注意する。

1 【ラウンドアップマックスロード（グリホサートカリウム塩48.0%）】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生雑草》 果樹類（除かんきつ）	・薬量 200～500ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布25～50 L	収穫7日前まで (雑草生育期)	果樹類（除かんきつ） 3回以内 かんきつ 5回以内 グリホサートを含む 農薬の総使用回数 果樹類（除かんきつ） 3回以内 かんきつ 5回以内
《1年生雑草》 かんきつ	・薬量 200～1000ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布5～50 L		
《多年生雑草》 果樹類（除かんきつ）	・薬量 500～1000ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布25～50 L		
《多年生雑草》 かんきつ	・薬量 500～1000ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布5～50 L		
《スギナ》 果樹類（除かんきつ） かんきつ	・薬量 1500～2000ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布25～50 L		
《マルバツユクサ》 果樹類（除かんきつ） かんきつ	・薬量 500～1500ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布25～50 L		

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

使用上の注意

- 少量散布には専用ノズルを用いる。
- 散布後1時間以内の降雨は、効果を低下させることがある。
- 遅効性（通常2～7日で効果が発現し、効果が完全に現れるまではさらに日数を要する）
- その他、グリホサートを含む剤（ラウンドアップ、草枯らし等）の使用上の注意を参照する。

2 【**草枯らし**（グリホサートイソプロピルアミン塩41.0%）】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生雑草》 果樹類(除かんきつ、パイナップル) かんきつ	・薬量 250～500ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布25～50 L	収穫7日前まで (雑草生育期)	3回以内 グリホサートを含む 農薬の総使用回数 果樹類(除かんきつ、 パイナップル) 3回以内 かんきつ 5回以内
《多年生雑草》 果樹類(除かんきつ、パイナップル) かんきつ	・薬量 500～1000ml ・希釈水量 通常散布50～100 L 少量散布25～50 L		

使用上の注意

- 少量散布には専用ノズルを用いる。
- 散布後6時間以内の降雨は、効果を低下させることがある。
- 遅効性（効果発現は2～14日後）
- その他、グリホサートを含む剤（ラウンドアップ、草枯らし等）の使用上の注意を参照する。

3 【**サンフーロン液剤**（グリホサートイソプロピルアミン塩41.0%）】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生雑草》 果樹類(除かんきつ) かんきつ	・薬量 250～500ml ・希釈水量 通常散布 50～100 L かんきつのみ少量散布も可 25～50 L	収穫7日前まで (雑草生育期)	3回以内 グリホサートを含む 農薬の総使用回数 果樹類(除かんきつ) 3回以内 かんきつ 5回以内
《多年生雑草》 果樹類(除かんきつ) かんきつ	・薬量 500～1000ml ・希釈水量 通常散布 50～100 L かんきつのみ少量散布も可 25～50 L		
《スギナ》 かんきつ	・薬量 2000ml ・希釈水量 通常散布 100 L		
《マルバツユクサ》 かんきつ	・薬量 1000～2000ml ・希釈水量 通常散布 100 L		

使用上の注意

- 雨が降りそうにない、風のない、天気の良い日に使用する。
- 散布後6時間以内の降雨は、効果を低下させることがある。
- 雑草の葉全体にムラなく散布する。
- 雑草の種類によって薬量を変える。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

— 除草剤 —

○ その他、グリホサートを含む剤（ラウンドアップ、草枯らし等）の使用上の注意を参照する。

4 【サンダーボルト007（グリホサートイソプロピルアミン塩30.0%、ピラフルフェネチル0.16%）】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生及び多年生雑草》 果樹類(除かんきつ、パイナップル) かんきつ	・ 薬量 400～1000ml ・ 希釈水量 100 L	収穫7日前まで (雑草生育期)	3回以内 グリホサートを含む農薬の総使用回数 果樹類(除かんきつ、パイナップル) 3回以内 かんきつ 5回以内 ピラフルフェネチルを含む農薬総使用回数 3回以内

使用上の注意

- 接触速効型と吸収移行型の成分を組み合わせた除草剤で、非選択的に各種雑草に作用する。
- 散布適期は雑草生育期(草丈30cm以下)なので、時期を失ないように散布する。
- 土壌が流亡したり、崩れたりする恐れのあるところでは使用しない。
- 果樹の葉や果実に付着すると、その部分には薬害症状が現れる。
- その他、グリホサートを含む剤（ラウンドアップ、草枯らし等）の使用上の注意を参照する。

5 【バスタ液剤（グルホシネート18.5%）】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生雑草》 いちじく、いちよう(種子)、おうとう、かき、かんきつ、キウイフルーツ、くり、さんしょう(果実)、小粒核果類、食用桑(果実)、なし、ネクタリン、びわ、ぶどう、ブルーベリー、もも、りんご	・ 薬量 300～500ml ・ 希釈水量 100～150 L かんきつ、ぶどう、りんごのみ少量散布も可 30～40 L	収穫前日まで(雑草生育期) (いちじく、おうとう、かき、小粒核果類、なし、ネクタリン、ぶどう、ブルーベリー、もも) 収穫7日前まで(雑草生育期) (さんしょう(果実)) 収穫14日前まで(雑草生育期) (いちよう(種子))	3回以内(除さんしょう(果実)) グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数 3回以内(除さんしょう(果実))
《多年生雑草》 いちよう(種子)、おうとう、かき、かんきつ、小粒核果類、なし、ネクタリン、ぶどう、ブルーベリー、もも、りんご	・ 薬量 500～1000ml ・ 希釈水量 100～150 L かんきつ、ぶどう、りんごのみ少量散布も可 30～40 L	収穫21日前まで(雑草生育期) (かんきつ、キウイフルーツ、びわ、りんご) 収穫30日前まで(雑草生育期) (くり)	2回以内(さんしょう(果実)) グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
《多年生雑草》 くり、さんしょう(果実)、びわ、キウイフルーツ、	・ 薬量 500～750ml ・ 希釈水量 100～150 L	収穫45日前まで(雑草生育期) 春期萌芽前及び夏切り後萌芽前(食用桑(果実))	2回以内(さんしょう(果実))

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

使用上の注意

- 展着剤を加用しない。
- 茎葉からの吸収移行型
- 非選択的に各種雑草に作用する。
- 散布適期は雑草生育期(草丈30cm以下)なので、時期を失しないように散布する。
- 土壌中では速やかに分解されるので、作物の根による土壌からの吸収害はない。
- 散布後2～5日で効果が発現する。
- 雑草抑制期間は長い(40～50日程度)。
- スギナ、ツクサにも効果がある。ただし、スギナは地下茎までは枯死しない。
- 散布後6時間以内の降雨は、効果を低下させることがある。
- 果樹の葉や果実に付着すると、その部分には薬害症状が現れる。
- 作物ごとのグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の範囲内で使用する。

6 【ザクサ液剤 (グルホシネートPナトリウム塩11.5%)】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生雑草》 果樹類(除かんきつ、りんご、びわ、いちよう(種子)、くり、キウイフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実))、いちよう(種子)、かんきつ、キウイフルーツ、くり、さんしょう(果実)、食用桑(果実)、びわ、りんご	・ 薬量 300～500ml ・ 希釈水量 100～150 L	収穫前日まで(雑草生育期) (果樹類(除かんきつ、りんご、びわ、いちよう(種子)、くり、キウイフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実)) 収穫21日前まで(雑草生育期) (かんきつ、りんご、びわ、キウイフルーツ)	3回以内(除さんしょう(果実)) グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数 3回以内(除さんしょう(果実))
《多年生雑草》 果樹類(除かんきつ、りんご、びわ、いちよう(種子)、くり、キウイフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実))、いちよう(種子)、かんきつ、キウイフルーツ、くり、さんしょう(果実)、食用桑(果実)、びわ、りんご	・ 薬量 500～1000ml ・ 希釈水量 100～150 L	収穫30日前まで(雑草生育期) (くり) 収穫14日前まで(雑草生育期) (いちよう(種子)) 収穫45日前まで(雑草生育期) 春期萌芽前及び夏切り後萌芽前(食用桑(果実)) 収穫7日前まで(雑草生育期) (さんしょう(果実))	2回以内(さんしょう(果実)) グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数 2回以内(さんしょう(果実))

使用上の注意

- 非選択的に各種雑草に作用
- 散布後1～3日後に効果が現れはじめ、7～14日で効果が最大となる。
- 散布直後の降雨は、効果を低下させることがある。
- 果樹の葉や果実に付着すると、その部分には薬害症状が現れる。
- 作物ごとのグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の範囲内で使用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

7 【**レグロックス 劇** (ジクワット31.8%)】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《果樹園下草 1年生雑草》 果樹類	・ 薬量 300～500ml ・ 希釈水量 70～100 L	雑草生育期 (収穫30日前まで)	5回以内 ジクワットを含む農薬の総使用回数 5回以内

使用上の注意

- 接触型除草剤
- 非選択的に各種雑草に作用する。
- 広葉雑草には効果が高い。大きくなったイネ科雑草にはやや効果が劣る。
- 作物の根による土壌からの吸収害はない。
- 速効性
- 非イオン系展着剤（クサリノール等）を加用する。
- 果樹の葉や果実に付着すると、その部分には薬害症状が現れる。
- 医薬用外劇物なので取扱いに注意する。

8 【**プリグロックスL 毒** (ジクワット7.0%、パラコート5.0%)】

《適用雑草名》 作物名	薬量及び希釈水量 (10a当たり)	使用時期	使用回数
《1年生雑草》 果樹類(除かんきつ) かんきつ	・ 薬量 800～1000ml ・ 希釈水量 100～150 L	雑草生育期 (収穫前日まで)	5回以内 ジクワットを含む農薬の総使用回数 5回以内
《多年生雑草》 果樹類(除かんきつ) かんきつ	・ 薬量 1500～2000ml ・ 希釈水量 100～150 L		
《スギナ》 果樹類(除かんきつ) かんきつ	・ 薬量 1000～2000ml ・ 希釈水量 100～150 L		
《ツユクサ》 かんきつ			

使用上の注意

- 接触型除草剤
- 非選択的に各種雑草に作用する。
- 散布15分後で速やかに雑草に吸収されるので、散布後の降雨によって効果が左右されることは少ない。
- 展着剤を加用する場合には、非イオン系展着剤（クサリノール等）を使用する。
- 果樹の葉や果実に付着すると、その部分には薬害症状が現れる。
- スギナには発生2ヶ月後(草丈20～30cm程度)に散布すると効果的である。
- 医薬用外毒物なので取扱いに注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。